



「鹿児島国際大学中西ゼミ プロデュース！農業高校 フェスタ」を開催！



7月17日(土)、マルヤガーデンズ地下1階食料品売り場で「鹿児島国際大学中西ゼミプロデュース！農業高校フェスタ」が開催されました。これは経営学科・中西ゼミの2年生が企画した販売会イベントで、初開催となるものです。

このイベントには、鶴翔高校、加世田常潤高校、山川高校の県立農業高校3校が中西ゼミと共同出店。各校、中西ゼミ生が提示したコンセプト「農業高校生の地元・

鹿児島への愛を感じさせる売り場」を基に思い思いに売り場を設計。各校で採れた野菜や各校自慢の加工品を販売しました。

一方、中西ゼミは、前期で取り組んだ食品開発プロジェクトで開発した徳之島産の黒糖を使ったタルト「あまあい」タルト」を販売。売り場は、農業高校生に負けずと知恵を絞り、100円ショップでそろえた資材を使って“しま”らしさを演出。お買い上げ商品には手書きのメッセージカードを添えるなど工夫を凝らした結果、見事、同日開催した天文館まちの駅“ゆめりあ”での販売分と合わせて140個を完売しました。

イベントの企画は中西ゼミの2年生にとって初めての経験でしたが、大学生と高校生の交流も進み、多くの方にご来場いただきました。



経営学科の中西ゼミが開発商品の販売会を開催

11月6日(土)、経営学科の中西ゼミ2年生が、フードコーディネーターの大脇裕美氏の監修により開発した「野菜をそのまま。ミネストローネ」と「野菜にそのまま、野菜炒めのたれ」の学外販売会を天文館まちの駅“ゆめりあ”で開催しました。これは同ゼミが毎年度後期に行っている取り組み「食育プロジェクト」の一環として実施されたもので、2018年度の開始以来、今年が4期目。

当日はあいにくの雨模様にも関わらず、多くのお客様が会場を訪問。中西ゼミ生は、日ごろの活動を通して得た経験や前日の11月5日に本学ユウカリ会館入口

で開催された学内販売会で得た知見を基にチラシ配布や商品説明を工夫。その結果、ミネストローネ41個、野菜炒めのたれ50本(完売)を販売することができました。学内販売会と合わせた総販売個数は223個(前者94個、後者119本)に達します。

中西ゼミ2年の佐伯好香さんは「お客様の特性が学内販売会と異なると感じたので、説明内容を少し変えてみると手にしてくれる回数が増えた。多くのことを学び、何よりもお客様に喜んでもらえてよかった」と語っています。



いちき串木野市でSNS勉強会を開催

経営学科 西ゼミ

経営学科の西ゼミ（担当：西宏樹准教授）が、JR串木野駅の近辺に位置する各商店（串木野商店街）の活性化に向けて、店主らにSNSの利用方法を指南する勉強会を、いちき串木野市役所といちき串木野商工会議所と共に8月に開催しました。

西ゼミは昨年度、同商店街でアンケート調査を行っており、課題として挙げたSNSの活用を促そうと、今回のイベントを企画。勉強会では始めに、若者がよく利用するSNS（Instagram・Facebook・Twitter）の

特徴やSNS映えする写真の撮り方について、ゼミ生が解説。その後、西准教授がSNS版の串木野商店街をつくることの重要性について説明し、実際にFacebookを使って、そのグループ化を行いました。

最後に、森友伸和氏（MOTTO代表社員）と満留隆一氏（テンダリー代表）による講評およびInstagramに関する特別講演が行われ、終始活発な勉強会となりました。次回は、2月に、いちき串木野商工会議所で串木野商店街研究の最終報告会を開催する予定です。



南九州市と包括連携協定締結

南九州市と本学は9月17日、地域振興や人材育成などに関する連携協力を盛り込んだ包括連携協定を締結しました。

南九州市とは平成29年から3年間、経済学部のジェフリー・アイリッシュ教授のゼミが、知覧武家屋敷庭園の活性化事業に取り組んだ実績があり、現在は、川辺町平山地区の商店街を中心に、地方の商店街の在り方や可能性を調査することに取り組んでいます。

本協定は、これらの事業を経験した学生の「南九州市と今後も持続的な関係性を持ち続けたい」という思

いが実り、より多方面で連携を深められるようにと締結に至りました。

調印式は南九州市役所であり、塗木弘幸市長と大久保幸夫学長が協定書に署名しました。塗木市長は「協定締結を契機にさらに連携協力が進み、南九州市の地方創生を達成したい」と意気込みを語り、大久保学長は「地域の方々から学ぶフィールドワークは学生を大きく成長させる。本協定締結により、地域に根差した大学として、さらに発展することを期待する」と抱負を語りました。

